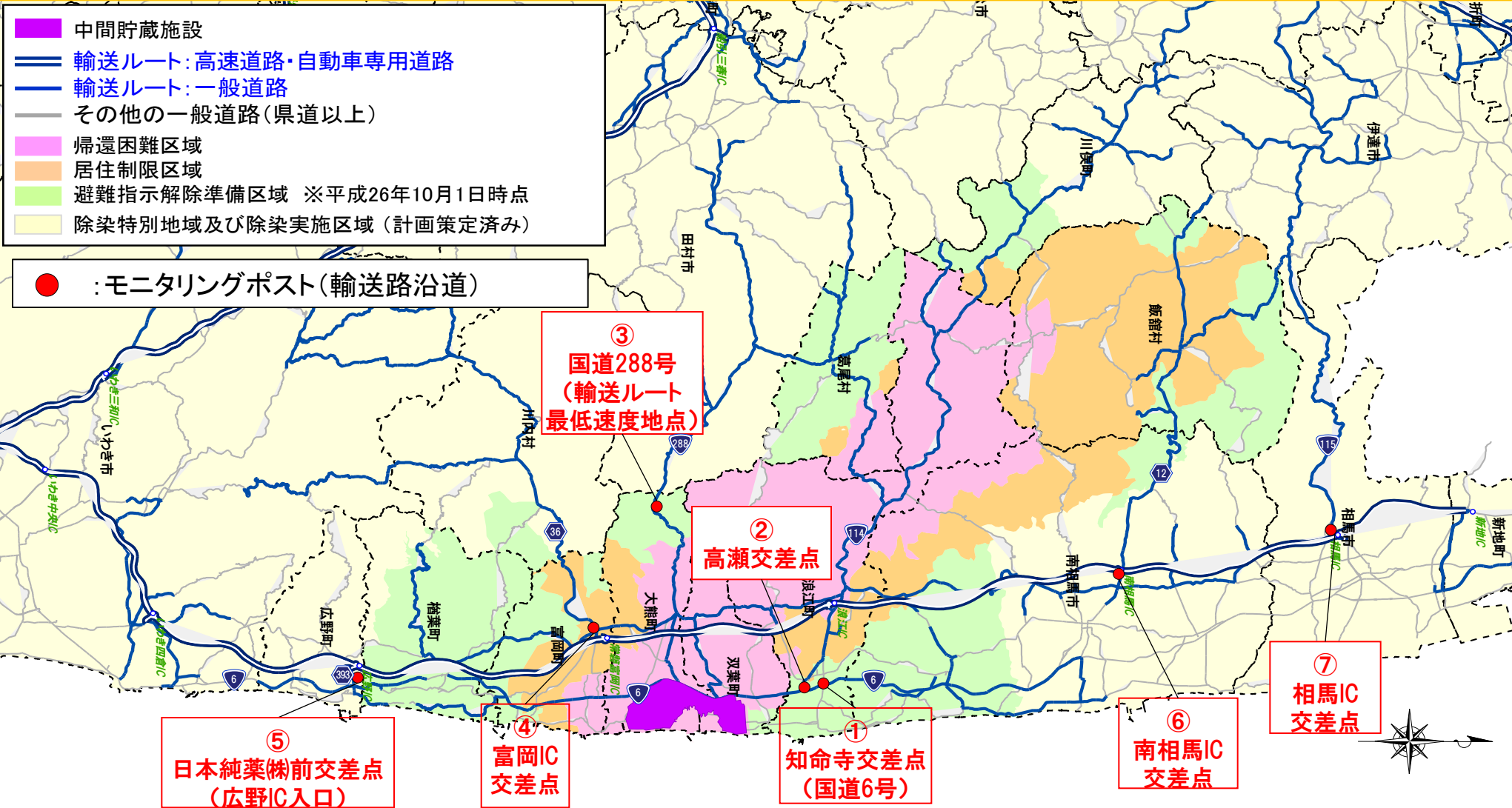


輸送路における放射線量率の測定

輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化の測定を実施している。



※従来、週1回データを回収していたが、より速やかに把握できるよう、3月から、データを自動送信する機器を設置している。

輸送路における放射線量率の測定地点

輸送路における放射線量率の測定結果

	当該地点を通過した輸送車両数 [台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの[台]※ ¹	(参考) 当該地点の空間線量率 [μSv/h]	(輸送車両通過時)		
				追加被ばく線量率 (瞬間最大値) [μSv/h] ※ ²	線量率の増加が観測された時間(累積) [分] ※ ²	追加被ばく線量(累積) [μSv]
①知命寺※ ³	-	-	0.23	-	-	-
②高瀬	1,604	85	0.21	0.33	54	0.066
③国道288号	159	1	0.32	0.05	0.3	0.0003
④富岡IC	4,919	0	1.4	0	0	0
⑤広野IC	321	3	0.22	0.03	1.0	0.0004
⑥南相馬IC	335	10	0.56	0.03	4.0	0.0019
⑦相馬IC	88	0	0.13	0	0	0

※¹ 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※² 測定は20秒単位。

※³ パイロット輸送期間中は輸送車両の通過実績が無かった。

輸送路における放射線量率の測定結果(平成27年3月～平成28年3月)

<評価>

輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。

引き続きモニタリングを実施し、輸送車両通過時の追加被ばく線量を評価していく。